

# 関係する事柄の解説

## 1. 戦国時代から江戸初期の頃のこまき小牧

小牧は、15世紀には清須を中心とする尾張の交通の大切な場所でした。

1563年、織田信長は美濃を攻めるための拠点として小牧山に城を作り、山の南に城下町を作りました。

1567年に信長は稲葉山城（岐阜城）に移りましたが、町はそのまま存続しました。

1584年、豊臣秀吉と徳川家康との対立から「小牧・長久手の戦い」がありました。このとき、家康は小牧山城を改修して使用し、秀吉は犬山城に入りました。

1623年、木曾の山林を持っていた尾張藩は街道を整備し、小牧山のふもとにあった町を現在の市街地（当時は原野だった）に移して新たな宿駅を作ることにしました。この移転には約10年かかり、ここに「小牧宿」が誕生しました。

## 2. 小牧宿

小牧宿は木曾街道（上街道）に沿って町並みが作られました。街道は現在の上街道商店街から入って突き当たりの戒蔵院を東に行き、ラピオ西の交差点を曲がって北に向かっています。

## 3. 三英傑

戦国から太平への道のりに大きな役割を果たしたのが、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の「三英傑」と呼ばれる武将たちです。この3人は、小牧にも関係の深い人物です。

## 4. 秋葉社

秋葉社は、小牧神明社にまつられている火伏せ（火事よけ）の神様です。町を火災から守るために、家の屋根にも社を作っておまつりしていました。「屋根神様」「軒神様」「あきやさま」などと呼ばれました。

## 5. 大山寺

むかし、小牧市北東部の大山に「大山寺」という寺がありました。言い伝えによれば、造られたのは奈良時代で、西の比叡山に並び称されましたが、1152年に炎上してしまいました。現在はその跡が「大山廃寺跡」として国指定の史跡となっています。

## 6. 十一面観音

戒蔵院にある木造の観音像です。室町時代に作られたものと考えられ、古くから「小牧のおかんのん」「火伏観音」として信仰されてきました。

## 7. 吉五郎

小牧山の小牧山稲荷神社にまつられているキツネです。尾張北部を束ねる大親分だったと伝わっています。小牧市民まつりのマスコット「きっちゃん」のモデルでもあります。

## 8. 楽市

織田信長などの戦国武将がとった政策の1つです。誰でも自由に品物を販売でき、税が軽くなったりすることもありました。これによって新しい商売が生まれ、物の流れが活発になったりしました。

## 9. 五枚岩

岩崎山の熊野神社にある大きな岩で、5枚の岩が直立しているように見えることから名付けられました。県の天然記念物に指定されています。